

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	首藤 敦史
論文担当者	主査 吉矢 晋一
	副査 石戸 聡
	副査 小山 英則
学位論文名	Long-term oral bisphosphonates delay healing after tooth extraction: a single institutional prospective study (経口ビスホスホネートの長期投与は抜歯後の治癒を遅延させる：単施設前向き研究)
論文審査の結果の要旨	
<p>ビスホスホネート (BP) は骨粗鬆症 (OP) の治療に有効であるが、BP 使用に伴う合併症に BP 関連顎骨壊死 (BRONJ) がある。抜歯により BRONJ の発症頻度は増加すると考えられており、抜歯前に BP の休薬が行われることがある。しかし、OP による骨有害事象を予防する観点からは BP の継続が望ましい。申請者らは OP 患者を対象に、BP を継続下で行う抜歯の臨床的安全性を評価することを目的に、本研究を行った。</p> <p>前向きに集積された 132 名の患者を対象とした。抜歯のプロトコルでは、抜歯前に BP の休薬を行わず、術前から厳重な感染管理を行い、抗菌薬は長期投与されていなかった。BP の総投与期間により患者を 4 グループ (Ⅰ：2 年未満、Ⅱ：2 年以上 5 年未満、Ⅲ：5 年以上 10 年未満、Ⅳ：10 年以上) に分け、BRONJ 発症の有無、創治癒期間を評価した。</p> <p>経口 BP の投与期間が 5 年以上のグループは、5 年未満のグループよりも有意に創治癒期間が延長した。同一グループ内において、ステロイド投与や糖尿病などの全身的风险因子による治癒期間延長は認めなかった。経口 BP 投与期間に関係なく BRONJ は発症しなかった。</p> <p>申請者らは本研究において、5 年以上の長期の BP 投与は抜歯後の治癒を遅延させたが、厳重な感染対策を行うことにより、BP を休薬せず抜歯しても BRONJ が発症しないことを示した。高齢化により OP 患者は増加しており、BP を使用する患者が今後も増加することを考慮すると、BP 継続下での抜歯の安全性を示した臨床的意義は大きく、学位論文に値すると判断した。</p>	